

## 編集委員会からの報告と依頼

### 一、報告

村研年報第九集の「研究動向」の執筆は、第二回編集委員会において、左記の方々に依頼することに決定し、交渉の結果、いずれの方々からも快諾をえました。つきましては、各分野ごとの「期間」内にご発表になりました論文等については、執筆者まで、抜刷または掲載されました函書、雑誌名をご提供下さるようお願い致します。尚、経済学の東会員からは、別記のようなど依頼文が寄せられていますのでご参照下さい。 編集委員会

	執筆者	とりあげる期間
経済学	東 敏夫	昭47・4～47・12
経済史学	岡 正夫	昭45・4～47・12
社会学	菅野 正	昭47・4～47・12
法律学	神谷 力	昭46・4～47・12
民族学	村武 精一	昭44・4～47・12

### 二、依頼

村研年報第九集、研究動向「経済学」に執筆をお願いした東敏夫氏より、次のごとき依頼文がよせられました。  
 会員諸氏の御協力をお願いいたします。

抜刷等の御寄贈をおねがい致します。

経済学分野については、次のような諸点に留意しながらこの一年間の研究動向を紹介したいと考えております。(1)昭和三〇年代のいわゆる高成長期から連なるものとしての現段階、この現段階における農村の主体的動向。(2)したがって、近年、研究の深められつつあるインテグレーションの諸問題を含め、農民層分析にかかわる研究動向。(3)ここでは農民層分析「論」そのもののみならず、進行する農村の変動をとらえる各分野での実態調査を、(4)例えば地域開発と農村、過疎と農村、都市化と農村、等々。ここでは農業を中心としながらも非農業的要素を含むものとしての農村を意識して……。 (5)以上のようななかで把握される現段階日本農業における小規模の性格規定との関連において明治以降日本農業の史的分析を。ここでは理論化されたものばかりでなく、県史、市町村史、あるいは個々の地方史のなかで地味に積みあげられつつある業績を。

以上はあくまでも「予定」ですが、それにしても、「経済学における」研究動向を中心としながらも、問題の関連において他の分野にも一部わたるのではないかと考えております。会員諸学兄より論文、論説、報告書等御寄贈願えれば幸いです。(〒310 水戸市千波町一七九九 東 敏雄 電話〇二九二一四一一〇七二〇)